CONCIERGE

by Mochimaru shokuhin Co.,Ltd. 12/Sep/2022/vol.701

稲穂 （徳島県産） Rice ears “Inaho”

秋の実りの風景といえば、黄金色に頭を垂れた稲穂もその一つに挙げられるのでしょう。二十四節気の芒種から季節が巡り、実りを湛える稲穂の姿は収穫の秋の訪れを告げています。あしらいの「稲穂」はそのまま飾りとしても風情がある素材、和食では稲穂の籾の先をサッと油にくぐらせ、ポンと白く爆（は）ぜさせて季節感溢れた粋なお料理の添え物としても使われています。それはまるで、稲穂の籾から待ちきれず顔を出す新米のように、または稲穂から白い花が咲いたような艶やかな姿として印象に残ります。米を主食とする日本では穂先に沢山の実がつく姿は豊かさの象徴とされ、縁起の良い飾りにも使われるのは五穀豊穣の願いが込められています。お正月飾りや結納品、結婚式やおめでたい席….舞妓さんのかんざしに至るまで使われる「稲穂」は、「実り多いことがたくさんありますように」という気持ちが結実した姿でもあるのでしょう。神聖な神の依り代でもあり、人々の幸せを願うなど、そんな縁起も兼ねて使われるおめでたいアイテムでもあります。